上益城郡教科等研究会（中学校社会科部会）
平成３０年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

課題追究の中で達成感を味わえる授業をめざして
～民主主義の担い手に必要な資質・能力の育成をめざして～

２　研究経過

月日（曜日）	活　動　内　容	活動場所	人数
５月２４日（木）	第一回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 昨年度反省、本年度研究テーマ協議、研究組織づくり等	嘉島町立 嘉島中学校	２３名
８月１７日（金）	第二回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（一日） 教材開発に係る地域巡検（九州横断道路、益城町役場）	山都町 益城町	１７名
10 月 22 日（月）	第三回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 研究授業　単元：公民的分野「現代の民主政治」 授業者：益城町立益城中学校　山本　康平　教諭	益城町立 益城中学校	１６名
１月２４日（木）	第四回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 講話「学習指導要領をふまえた『求められる社会科授業』」 講師：文部科学省初等中等教育局視学官　濵野　清　氏	嘉島町 町民会館	２３名 会員外 ２２名

３　研究の概要

(1) 研究の内容

研究テーマ「課題追究の中で達成感をあじわえる授業づくり～民主主義の担い手に必要な資質・能力の育成をめざして～」のもと、「課題設定の工夫」と「話し合い活動の充実」の２つを実践項目の柱として研究に取り組んだ。

地域巡検では、三分野において授業の題材、資料の開発につなげることを意識して見学、研修を行った。山都町の九州横断道路では、高速道路が建設される現場に行き、社会資本を整備する行政の動きや建設業に携わる人々の取組と課題、また交通網の発達による地域の変容についてまで学ぶことができた。また、益城町役場では、震災から立ち上がる地域の姿と行政の在り方、地方財政の仕組みについて学ぶことができた。これらの地域巡検で得た資料等は、実際に授業の題材や資料として活用することができた。

【 九州横断自動車道での研修 】

研究授業および授業研究会では、３年生公民的分野「現代の民主政治」について取り扱い、研究テーマと重点実践内容にせまることができた。課題設定の工夫として、ICT 機器を活用して前時の復習や資料の提示の仕方を工夫し、生徒に問題意識を持たせることにした。話し合い活動ではディベートを取り入れ、話し合いが活発になされるように工夫した。授業ではいくつかの課題も見られたが、一人ひとりの授業につながる、すばらしい検証授業であった。

第４回の研修では講師に文部科学省初等中等教育局視学官の濵野清氏を迎え、「学習指導要領をふまえた『求められる社会科授業』」という演題で講話をいただいた。これからの社会科授業についての先進的な話であり、具体的な授業改善につながる深い内容であった。特に「問い」については、「状態に関わる問い」、「要因に関わる問い」、「判断に関わる問い」など視点を生かして、考察や構想に向かうように発問すべきだとの示唆をいただいた。今後の授業にすぐにでも生かしていけると実感した。

【 濵野視学官による講演 】

(2) 成果と課題（○成果　●課題）

○　目的を意識した地域巡検により、実際の授業に活用できる情報を収集することができた。

●　授業実践を通して、課題設定の工夫に迫ることはできたが、その課題が生徒の問題意識を持続させるのに適した課題であるか、課題の登場のさせ方、出会わせ方には工夫がいる。

●　授業実践を通して、「話し合い活動」についてはどの学校も課題であることがわかった。より深まりのある話し合い活動のためにどのような指導の工夫改善が必要か、今後も検討が必要である。

4　実践事例

(1) 授業の概要

３年生公民的分野「現代の民主政治」の研究授業を益城町立益城中学校の山本康平教諭が行った。めあてを「選挙の課題を理解し、将来自分にできることを考えることができる。」とし、「ディベートを通して、選挙の課題に対する解決策を考え、将来の有権者としての自覚を高める」という目標にせまった。授業内容において、特に意識されていたのは次の３点である。

①　導入で ICT 機器を効果的に活用して前時の復習を行い、本時のめあてに結びつける。 ②　基礎的基本的事項について主体的にまとめ、思考につなげる。 ③　ディベートを用いることで、選挙の課題を自分のこととして捉えさせる。

①について、導入の工夫では、これまでの学習に関する資料を大型テレビで提示し、丁寧に説明していくことで、本時に関わる知識を確認することができた。テレビを活用することで、資料への注目度を一気に集めることができ、生徒の関心を引き付けるうえでもたいへん効果があることが再認識できた。さらなる改善案として、提示の仕方のテンポに気を付けることで、一部の生徒だけでなく、全生徒にとって確実な振り返りがなされたのではないかという点が指摘された。

【 大型テレビを使っての導入 】

②については、生徒が主体的に本時に関わる基礎的基本的事項をまとめるという場を設定した。生徒は、本時に必要だと感じる基礎的基本的事項を教科書から自分で見つけて、線を引き、ノートにまとめていた。自分でまとめることにより、次の活動でそれらを活用しようという意欲も増し、定着にもつながっていた。さらに、語句の意味まで理解できる工夫を行いたい。

【 自分で基礎基本をまとめる生徒 】

③については、活発なディベートが展開された。班の構成や係分担も工夫されており、日ごろから話し合い活動が訓練されている事がうかがえた。また、考えることが苦手な生徒にとっても、少人数の中で他の人に質問したり、他の人の考えを参考にしたりすることができ、課題を自分のこととして捉えるのに効果が見られた。さらなる改善案としては、「ディベートの判断基準を吟味すること」、「賛成でも反対でもない生徒を審判にしてはどうか」といった意見が寄せられた。

【 作戦を練る生徒たち 】

話し合い活動については、どのようにすれば生徒の思考の深まりが図られるのか、どの学校でも課題となっている。協議の中で、「話し合いの目的を明確にする」、「課題を解決するのに適した形態を吟味する」など、様々な改善策が出された。来年以降の課題である。

授業全体として生徒が活発に活動し、考える授業であり、多くの先生方の参考になった。また、資料の作成法など一人一人の日ごろの授業実践につながる成果を得ることができた。

【 審判の判断の様子 】

(2)　学習指導案

社会科（公民的分野）学習指導案　指導者　益城町立益城中学校　教諭　山本康平

１　単元名　現代の民主政治（東京書籍ｐ７１～ｐ８３）

２　単元について

（１）単元観

現在の日本は急速に変化する国内外の社会情勢に対応するため、主権者として、国民一人一人が政治に関心を高め、国民の意思を国政に反映させることが非常に重要になっている。しかし、投票率は年々低下するなど、国民の政治に対する関心の低さが問題となっている。そんな中、平成２８年６月に公職選挙法等の一部を改正する法律が施行し、選挙権が満１８歳に引き下げられた。それにともなって、学校教育における主権者教育がますます重要となってきている。義務教育を修了する中学３年生において、主権者教育は極めて意義があるといえる。この単元では議会制民主主義に関する学習を通して､民主政治が権力分立により国民の自由や権利を守るとともに、国民の意思の反映をはかるしくみとなっていること、また、国民の積極的な政治参加により民主政治を推進することが大切であること理解させ、人間を尊重し、自由と権利を保障する民主政治を守り、発展させようとする意欲や態度を養いたい。

（２）生徒観

活発で積極的に発言できる生徒が多く、普段の授業の中でも多様な意見が出るクラスである。表現することに消極的な生徒もいるが、どんな意見でも受け入れる雰囲気があり、ワークシートやノートなどそれぞれの方法で表現するように取り組んでいる。社会的事象に興味を持ち、意欲的に学習に取り組む生徒が多いが、自ら課題を見つけ、その課題に向けて順序立てて解決しようとする力は全体的にまだまだ不十分である。

学習に先立って行った事前アンケートでは「政治に関して興味関心を持っている」という質問に対して肯定的に答えた生徒は60.4%、また、「将来投票に行きたいと思う」という質問に対して肯定的に答えた生徒は60.5%と半数以上の生徒が政治や選挙に興味を持っていることが分かった。また、「日本にこうなってほしいという自分の願いがある」という質問に対しても73.6%と肯定的な回答が多かった。今、生徒が持っている政治への関心を大切にしながら、自分の思いを政治に反映させるための方法を学びやその意義について考えさせながら、主権者としての意識を高めさせたい。

（３）指導観

公民的分野は用語や概念も「難しい」と感じ、抵抗感や不安感を示す生徒も多くいる。そこで学習に対する興味・関心を高めるために、取り上げる社会的事象が自分たちに近いことだと捉えられるよう、ニュースや新聞記事などを活用している。この学年は１年生から担当しており、地理的分野や歴史的分野においても、社会で起こっていることをできるだけ取り上げながら、興味・関心を持たせるようにしてきた。公民的分野は地理的分野と歴史的分野で学んだことを関連して学ぶところも多い。既習事項と新たに身につける知識と関連づけて考えさせ、社会的事象に対して多面的・多角的に考える力を高めていきたい。

本校の学校教育目標は「自分に誇りをもち、自ら輝く生徒の育成」であり、研究主題は「基礎的・基本的な知識・技能を効果的に活用する授業の創造」である。グループを用いた作業や話し合いの学習を通して、既習事項を活用し、根拠をもとに考え、表現する言語活動の充実を図りたい。そのために、学習規律の徹底をはかり、仲間との関わりを持ち、多様な意見や考えを尊重できる心を育てていきたいと考えている。

３　単元の目標

社会的事象への関心・意欲・態度	身近で具体的な事例を通して政治に関心を持たせ、主権者として政治に積極的に関わろうとする意欲と態度を育てる。
社会的な思考・判断・表現	選挙をはじめとする国民の政治参加によって、より良い民主政治が運営されることに気づかせ、良識ある主権者としての政治参加の在り方について考えさせる。
資料活用の技能	マスメディアの世論形成への影響力について理解し、新聞記事などの読み解きや比較を通して様々な角度から理解する。
社会的事象についての知識・理解	議会制民主主義の意義や、国会を中心とする国政のあらまし、地方自治の考え方について理解させる。

4　単元の指導計画と評価規準計画（全６時間　本時6/6）

次	時	主な学習活動	評価
1	1	市長選挙の各候補者の政策を市民の立場から分析する活動を通して、政治について関心を持つ。	政治に対して関心を持ち、学習に意欲的に取り組んでいる。（関・意・態）
単元を貫く課題：主権者であるという自覚を深め、主体的に政治に参加する準備をする			
2	1	民主主義とは何か、なぜ議会制民主主義が採用されるのか、独裁政治や専制政治との比較などを通して理解する。	議会制民主主義において、多数決の原理と少数意見の尊重が重要であることを理解している。（知識・理解）
3	1	選挙は政治参加の重要な機会であることを理解し、具体的な作業を通して、選挙制度のあらましを理解する。	選挙の意義と日本の選挙制度のあらましを理解している。（知識・理解）
4 本時	1	選挙に関する課題について、主権者の立場から具体的な事例を通して考え、ディベートの中で深める。	選挙に関する課題について、多角的・多面的に考察し、ディベートにおいて肯定、否定、審判それぞれの立場で自分の考えを表現している。（思・判・表）
5	1	政党が国民と議会を結びつける役割を果たしており、民主政治において重要な存在であることを理解する。	政党の役割について、具体的な事例に基づいて理解している。（知識・理解）
6	1	世論形成におけるマスメディアの役割を理解し、公正な世論形成のためにマスメディアや国民一人一人はどう在るべきか考える。	課題に沿って新聞記事を収集・選択し、その内容を的確に読み取っている。（技能）

5　本時の学習

（1）本時の目標

選挙の課題を理解し、ディベートを通して解決策を考え、将来の有権者としての自覚を高める。

（2）本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材 資料等
導入	5分	1　前時の復習をする。 2　本時のめあてを確認する。	一斉	○選挙制度のあらましを復習し、本時につなげる。	モニター
めあて：選挙の課題を理解し、将来自分にできることを考えることができる。					
展開	40分	3　教科書を熟読し、選挙の課題を理解する。	一斉	○選挙の二つの課題は何ですか。 ・投票率の低下、棄権の増加 ・一票の格差	モニター 教科書
中心発問：我が国では、投票を義務にすべきである。是か非か。					
		4　「棄権の増加」についてディベートを行う。	グループ	○「我が国は投票を義務化すべきである」というテーマでディベートを行いましょう。	ワークシート
まとめ	5分	5　本時のまとめと振り返りを行い、将来自分にできることを考える。	一斉	○本時のまとめと振り返りを行いましょう。 ・投票が義務化されなくても目的意識をもって投票に行かなければならないと思った。	ワークシート

（3）本時の評価

場面	評価基準
評価	A　選挙の課題を理解し、多面的・多角的に考えた解決策を自分の言葉で表現できる。 B　選挙の課題を理解し、考えた解決策を自分の言葉で表現できる。